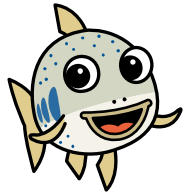


那賀川水源地域ビジョン

もんできい よつてきい みんなできい



那賀川流域ではぐくむ地域づくり



平成28年3月

那賀川水源地域ビジョン協議会

目 次

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 那賀川水源地域ビジョン策定の経緯・・・・・・・・	2
3. 那賀川流域の現状および課題とニーズ・・・・・・・・	4
(1) 那賀川流域の現状	
(2) 那賀川上流域の課題とニーズ	
4. 那賀川水源地域ビジョンの基本方針・・・・・・・・	10
5. 那賀川水源地域ビジョンの実施内容・・・・・・・・	11
(1) 那賀川水源地域ビジョンで取り組む施策	
(2) 施策の段階的な推進活動	
(3) 那賀川水源地域ビジョンの推進体制	
(4) 次年度以降の那賀川水源地域ビジョンの動き	

参考資料

- ・ 那賀川水源地域ビジョン協議会 規約
- ・ 那賀川水源地域ビジョン協議会メンバー、作業部会メンバー一覧
- ・ アンケート調査の結果

1. はじめに

「水源地域ビジョン」とは

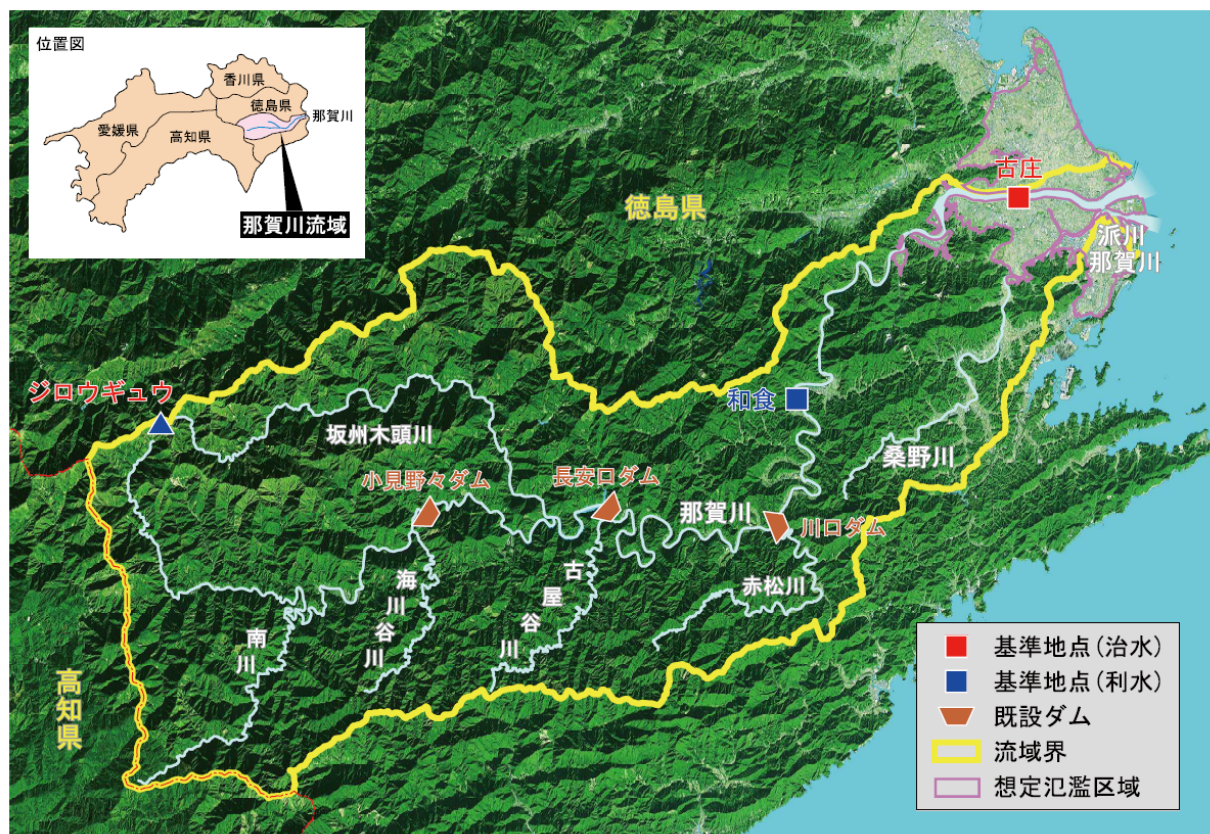
水源地域ビジョンとは、「水源地域活性化のための行動計画」です。ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的としています。

ダム水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の住民・関係行政機関に参加を呼びかけながら策定するものです。

那賀川水源地域ビジョンの目的

那賀川水源地域ビジョンは、長安ロダムがある那賀川上流域と下流域の連携を深めながら、「那賀川流域全体」の活性化を目指すことを目的としています。

現在、那賀川流域ではいくつもの活動団体があり、個々で活動を進められています。そこで、那賀川水源地域ビジョンでは、既に活動されている各団体がゆるやかに連携することで、それぞれの活動の拡充と新たなニーズの掘り起こしを行い、那賀川流域全体の更なる活性化に繋げていきたいと考えています。



(出典：那賀川河川事務所 HP)

図1 那賀川水源地域ビジョンの対象範囲

2. 那賀川水源地域ビジョン策定の経緯

那賀川水源地域ビジョンの策定に向けて、「那賀川水源地域ビジョン協議会（以下、協議会とする）」とその下部組織として「那賀川水源地域ビジョン作業部会（以下、作業部会とする）」を設立しました。また、協議会を設立する前に、事前協議会と那賀川水源地域ビジョン準備会を開催し、協議会・作業部会のメンバーや進め方について協議しました。

協議会は、流域の活動団体、学識者、自治体、企業からなる 16 名、作業部会は、流域の活動団体、学識者、自治体、企業からなる 23 名で構成し、ビジョン策定に向けて協議をしました。

【那賀川水源地域ビジョン協議会】

那賀川水源地域ビジョンの基本方針や施策内容の検討および作業部会の進め方など、ビジョン策定に関する事項について審議し、策定するための組織。



具体的な施策の提案
活動状況の報告



進め方の決定
実施の支援



【那賀川水源地域ビジョン作業部会】

協議会の下部組織として、協議会で検討した施策（案）について、具体的な施策の内容を協議するための組織。

那賀川水源地域ビジョンの基本方針に沿って、3つの作業部会を設立。また、各作業部会で議論した内容は、毎回、作業部会間で情報を共有。



第1作業部会

情報共有

第3作業部会

第2作業部会

<事務局>国土交通省 四国地方整備局 那賀川河川事務所

●那賀川水源地域ビジョン策定までの流れ

年月日	事柄	概要
H26. 1. 22	事前協議会	那賀川水源地域ビジョンの推進に先立ち、準備会を開催するための事前協議を実施。
H26. 6. 16	那賀川水源地域ビジョン 準備会	那賀川水源地域ビジョンのコンセプト・基本方針、協議会メンバー、進め方について、協議を実施。
H27. 2. 17	那賀川水源地域ビジョン 第1回協議会	那賀川水源地域ビジョン協議会の規約とコンセプト・基本方針・施策（案）、作業部会の部会員の振り分けについて検討。また、作業部会メンバーについて、協議を実施。
H27. 7. 15	那賀川水源地域ビジョン 第1回作業部会	3つのテーマによる作業部会を開催。各作業部会で今年度取り組むテーマと施策（案）について協議を実施。
H27. 12. 18	那賀川水源地域ビジョン 第2回作業部会	現地視察会を実施。第1回作業部会に引き続き、今年度取り組むテーマと追加施策（案）について協議を実施。
H28. 2. 1	那賀川水源地域ビジョン 第3回作業部会	施策内容の最終確認を行った。また、第2回作業部会に引き続き、今年度取り組むテーマについて協議を実施。
H28. 3. 3	那賀川水源地域ビジョン 第2回協議会	今年度の作業部会での取り組みを共有。公表資料（案）について検討。
H28. 3	那賀川水源地域ビジョンの公表	—



写真1 作業部会の様子

3. 那賀川流域の現状および課題とニーズ

(1) 那賀川流域の現状

那賀川の概要

那賀川は、徳島県那賀郡那賀町の剣山（つるぎさん）山系ジロウギユウ（標高 1,929m）を水源とした一級河川で、流域面積は 874km²、水源から河口までの距離は 125km です。流域の地形は、上・中流域では急峻で山岳がV字型の溪谷をつくり、下流域は典型的な三角州扇状地となっています。また、那賀川上流域は、年間降水量が 3,000mm を超える多雨地帯で、急な河川勾配と併せて、雨水の流下が極めて早いことから、洪水とともに渇水も多発する河川です。



源流部(那賀川上流部)



鷲敷ライン(那賀川中流部)



那賀川橋付近(那賀川下流部)

(写真：「那賀川水系河川整備計画」 四国地方整備局, 徳島県 平成 27 年 2 月)

写真 2 那賀川上・中・下流域の様子

長安口ダム

長安口ダムは、洪水調節、発電、既得用水の安定化及び河川環境の保全等を目的に、昭和 31 年に建設された那賀川総合開発の中核をなす多目的ダムです。



(写真提供：那賀川河川事務所)

写真 3 長安口ダムの様子

流域の人口

那賀川流域には、阿南市・那賀町・小松島市・勝浦町・美波町の 2 市 3 町があり、流域の大部分を占める阿南市と那賀町の人口の合計は約 85,000 人（平成 27 年時点）となっています。

那賀川流域では、人口減少・高齢化がすすんでおり、上・中流域に位置する那賀町では、総人口が昭和 55 年の約 14,400 人から、平成 22 年には約 9,300 人にまで減少し、65 歳以上の高齢人口の割合は 15.6%から 42.4%にまで増加しています(出典：「那賀町まちづくり計画」 那賀町 平成 27 年 3 月)。

地域資源

那賀川流域は、山地が 92%を占めており、平地はわずか 8%にすぎません。那賀川上流域の森林は、人工林が約 7 割を占めています(出典：「那賀川水系河川整備計画」 四国地方整備局, 徳島県 平成 27 年 2 月)。温暖多雨の気候から杉の植林の適地として、多くの私有地では戦後の木材需要期に杉の植林が盛んに行われました。しかし、時代の流れで木材需要の減少や過疎化が進み、現在は森林の手入れが困難な状況となっています。農産物では、木頭地区で栽培されている柚子や相生地区で生産されている晩茶が有名です。

伝統文化

那賀川上・中流域の那賀町には、農村舞台（のうそんぶたい）や拝宮地区に伝わる紙漉き（かみすき）、古代織である太布織（たふおり）、吹筒花火（ふきづつはなび）等の伝統文化も数多く残されています。

農村舞台とは、江戸時代より伝わる農村浄瑠璃（のうそんじょうり）の舞台のことで、那賀町には坂州農村舞台（さかしゅうのうそんぶたい）、川俣農村舞台（かわまたのうそんぶたい）、拝宮農村舞台（はいぎゅうのうそんぶたい）等が現存しています。中でも、坂州農村舞台は坂州八幡神社境内にあり、江戸時代後期の建築と推定され国の重要有形民俗文化財に指定されています。また、阿波人形浄瑠璃（あわにんぎょうじょうり）は、徳島県の重要無形民俗文化財に指定されています。

拝宮地区に伝わる紙漉きは、楮（こうぞ）を使い良質の障子紙をつくってきました。かつてこの地区では、ほとんどの家が紙漉きに従事し、農閑期の産業として製紙業が栄えました。

太布織とは、全国でも木頭地区にのみ伝わる古代の織物で、楮の皮から紡いだ糸で織った織物です。なお、技術の伝承のために、那賀川上流域に工房と製品展示施設があります。

天保年間より伝承されている吹筒花火は、竹の筒に火薬を詰めて吹き上がる仕組みの花火で、那賀町相生地区の文化財にも指定されている伝統ある花火です。なお、吹筒花火は吹筒煙火（ふきづつえんか）とも呼ばれます。

また、那賀川下流域の阿南市には、特産品である竹で作られた活竹人形（かっちくにんぎょう）があります。



農村舞台の様子※1



阿波人形浄瑠璃の公演の様子※1



紙漉きの様子※2



太布織りの様子※2



吹筒花火※2



活竹人形※3

(※1 写真提供：丹生谷清流座、※2 写真提供：那賀町、※3 写真提供：阿南市)

写真4 地域の伝統文化

地域の特産品

那賀町には、はんごろしやかきまぜ等の地域の特産品があります。はんごろしは、那賀町相生地区に伝わるおはぎのことで、餅米をつぶしすぎず、半ば形が残った状態であることが名前の由来となっています。かきまぜは、木頭ゆずの果汁をたっぷり使ったちらし寿司のことで



はんごろし※¹



かきまぜ※²

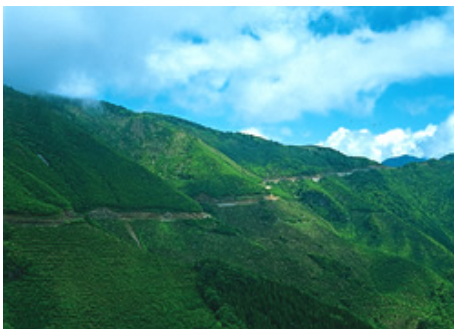
(※¹ 写真提供：那賀町、※² 写真提供：那賀川河川事務所)

写真 5 地域の特産品

観光

四国第二の標高をもつ剣山(標高 1,955m)には、多くの登山客が訪れており、剣山スーパー林道では新緑や紅葉狩りに、また冬季には樹氷まつりも開催されています。1985年(昭和60年)に全面開通したこの林道は、上勝町の起点から木沢地区を抜けて、木頭地区の高の瀬峡(こうのせきょう)まで、全長 87.7km の日本一の林道です(出典：那賀町 HP)。なお、この林道はオフロードであることから、ツーリング客が多く訪れています。

他にも、那賀川上流には高の瀬峡や歩危峡(ほききょう)などの渓谷や、日本の滝百選にも選ばれている大釜の滝(おおがまのたき)などの自然豊かな観光資源がたくさんあります。また、四国八十八ヶ所霊場第二十一番札所の太龍寺(たいりゅうじ)があり、お参りするお遍路さんで賑わっています。



スーパー林道※¹



高の瀬峡※²



大釜の滝※²

(※¹ の写真：那賀町 HP、※² 写真提供：那賀町)

写真 6 那賀川上流の観光資源

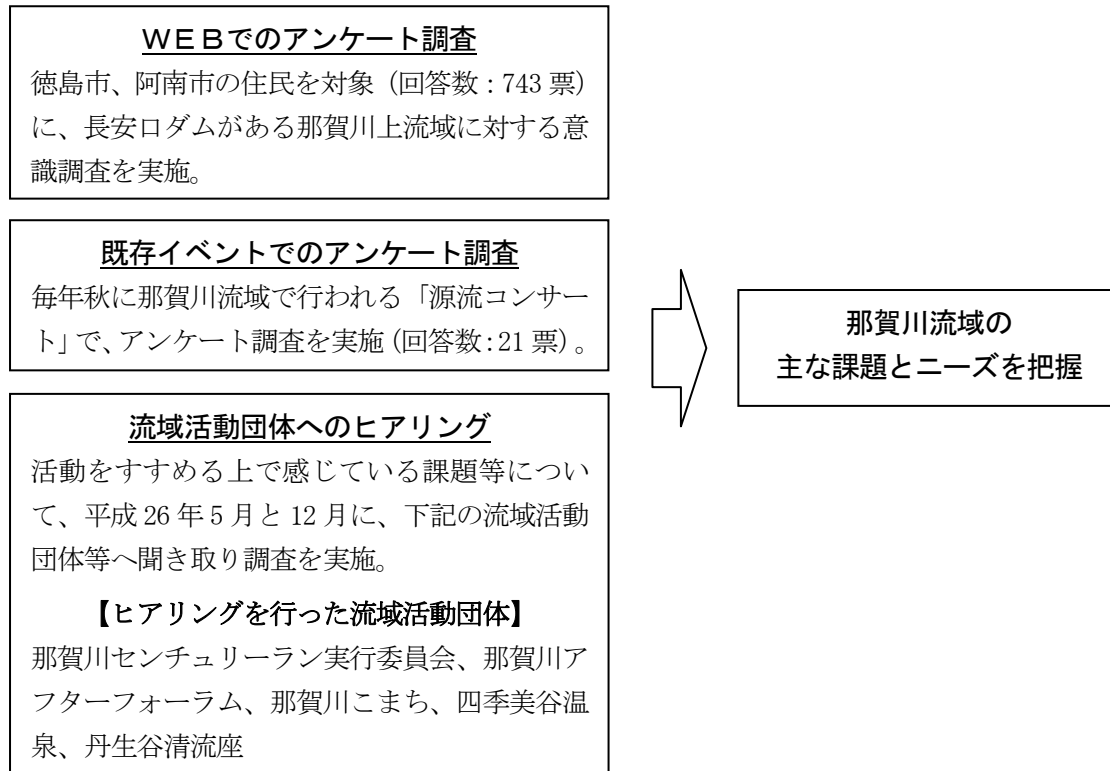
産業

那賀川流域の産業は、上・中流域では林業が盛んで、河口域においては、昭和 39 年に新産業都市に指定されて以来、主に製紙、化学工業製品、製材、木工等が発達しています。また、阿南市では世界一の生産高を誇る発光ダイオードを使った「阿南光のまちづくり」が進められています(出典：「那賀川水系河川整備計画」 四国地方整備局、徳島県 平成 27 年 2 月)。

(2) 那賀川上流域の課題とニーズ

意識調査の実施

水源地域ビジョンの施策を検討するにあたり、那賀川上流域の主な課題とニーズを把握するために、WEB アンケート調査、那賀川上流域で行われている既存イベントでのアンケート調査、並びに流域活動団体へのヒアリングを行いました。



意識調査の結果

【WEBアンケート調査および既存イベントアンケート調査の結果】

● 那賀川上流域に対する住民ニーズ

- ・美しい自然景観が那賀町の魅力だと感じている。
- ・那賀川上流域のイメージは、地元住民は伝統文化、その他の地域では美しい自然景観だと思っている。
- ・ドライブと自然景観を目的に、他市町村から人が訪れている。
- ・那賀川上流域内外共に、地域活動への関心はある。
- ・関心がある地域活動は、地域固有の食、自然環境の保全活動、地域の伝統文化の体験、地域のイベントである。
- ・那賀川上流域のダム堤体見学、自然環境の保全活動、伝統文化の鑑賞・体験等のイベントに感心がある。
- ・那賀川上流域の地域活動を進める際、地元住民は、上下流域間での意見交換の場や那賀川上流域のPRが必要と感じている。
- ・那賀川上流域の郷土料理、ゆずを使った手作り体験、アメゴのつかみ取り体験に関心がある。
- ・那賀川上流域の豊富な自然を生かしたイベントや自然保護の取り組みに関心がある。
- ・子どもが参加できるイベントや高齢者が参加できる施策が望まれている。

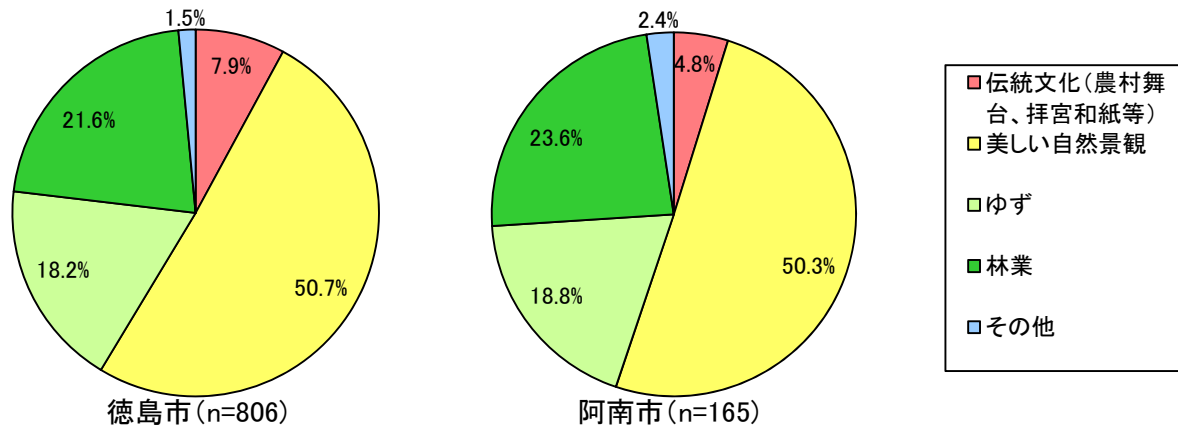


図2 那賀川上流域のイメージ (WEB アンケート調査結果より)

※ () 内の数値は、回答数となります。また、上記の設定は、複数回答となります。

●那賀川上流域に対する課題

- ・ イベントや地元情報の PR が不足。観光マップの配布やイベントの周知等の広報に力をいれる必要がある。
- ・ 県内外への観光情報をさらに提供する必要がある。
- ・ 地域の売りや地域の特色を出したイメージ戦略が必要。
- ・ 交通の便が良くないので、那賀川特産品を前面に押し出した、宿泊を伴う PR が必要。
- ・ 都会から人を呼びこむための仕組みが必要。
- ・ アクセスが不便。イベント時だけでも徳島市や阿南市～那賀町までの移動手段はほしい。
- ・ 那賀川の川のイメージが少ない。川沿いでのイベント (キャンプ等) があると認知される可能性がある。
- ・ 高齢化が進み、若い世代がいない。地域の担い手の育成が必要。
- ・ 大都会には、老後での田舎の住まいを探している人もいる。ビジネスとしても運営できる高齢者の受け入れを、那賀川の PR とともに行うと良い。
- ・ 場所がわかりにくい。せめて、イベント時には、道中にも案内標識や看板等の設置が必要。
- ・ 山が荒れていると感じるところもあり、景観を損ねているように感じた。

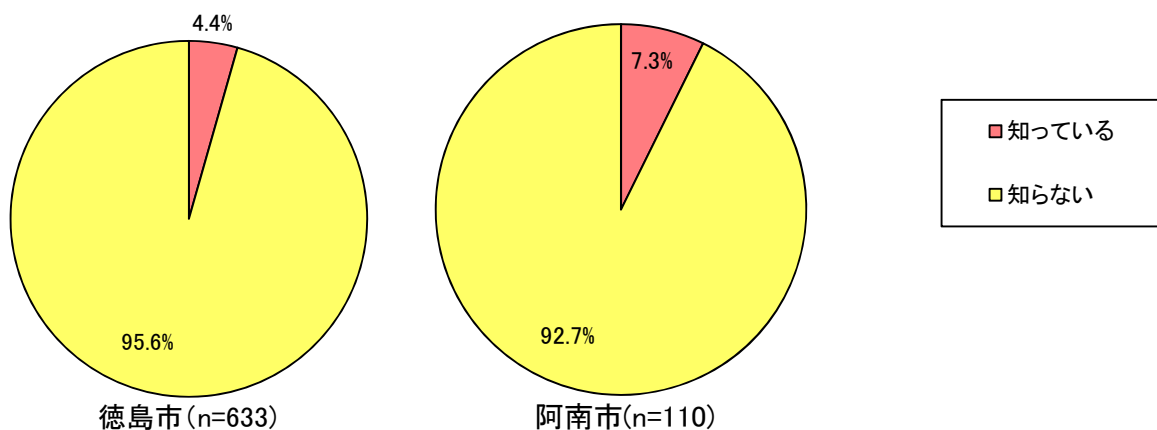


図3 那賀川の日イベント認知度 (WEB アンケート調査結果より)

【流域活動団体へのヒアリングの結果】

●那賀川上流域での課題

- ・町内でも様々な形で活動している人達がいるが、個々での活動には限界がある。
- ・地域活動を進める際、人材や資金などで苦慮しているため、水源地域ビジョンの中で横のつながりを広げていければ良い。
- ・何をすることも人の育成が重要。参加する人や地域を守り育てる人を、水源地域ビジョンの中で取りこんでいきたい。

●他の活動団体との連携

- ・那賀川流域全体で、地域の活性化に取り組んでいきたい。
- ・様々な団体が連携、協力しあうことで、さらに人を呼べるPR活動ができると思う。
- ・継続してやっていける上下流の交流を進めたい。
- ・継続した活動を続けるために、那賀川上下流域をつなぐ活動は良いことである。

那賀川上流域の主な課題とニーズ

【主なニーズ】

- ・那賀川上流域のイメージは、地元住民は伝統文化、その他の地域住民は美しい自然景観だと思っている。
- ・関心がある地域活動は、地域固有の食、自然環境の保全活動、地域の伝統文化の体験、地域のイベントである。また、ダムを活用も求められている。
- ・継続的な活動とするために、既存の資源やイベントを活用したほうがよい。
- ・子どもからお年寄りまでが参加できる施策を検討して欲しい。
- ・那賀川流域全体で、地域の活性化に取り組むたい。

【主な課題】

- ・魅力的な地域資源はあるが、活用しきれていない。PRも不足している。
- ・高齢化等による担い手（受入れ）の不足。地域を守り育てる人の育成が必要。
- ・様々な活動団体があるが、個々の活動では限界がある。
- ・地域活動を進める際、人材や資金などで苦慮している。

4. 那賀川水源地域ビジョンの基本方針

那賀川流域の現状および課題とニーズより、那賀川水源地域ビジョンのコンセプトを掲げました。このコンセプトに基づき、基本方針4項目を定めました。

那賀川水源地域ビジョンのコンセプト

もんできい、よってきい、みんなできい

～那賀川流域ではぐくむ地域づくり～

那賀川の流域全体に住む人達の繋がり（絆）を深め、更なる流域の活性化を目指します。

豊かな自然の恵み、そこに暮らし続ける地域の人々の暮らしを見つめなおし、これからも那賀川に住み続けたい、那賀川流域に行ってみたいと思えるような計画づくりを進めます。

基本方針Ⅰ

流域の環境を育む

剣山を水源とした那賀川の美しい自然景観を、ダムも含めて活用するとともに、みんなが暮らす地域の森林保全活動を進めながら、もりびと（森人・守人）の育成を目指します。

基本方針Ⅱ

伝統文化をつなぐ

農村舞台や人形浄瑠璃等の地域の伝統文化、地域の食文化、過去に那賀川流域で起こった災害遺産を後世に継承することを目指します。

基本方針Ⅲ

人との繋がりを深める

イベント等を通じて、那賀川上流域と下流域の活動団体の連携を深めます。また、活動を広めるために、都市住民との関わりも進めます。

基本方針Ⅳ

那賀川の魅力を広める

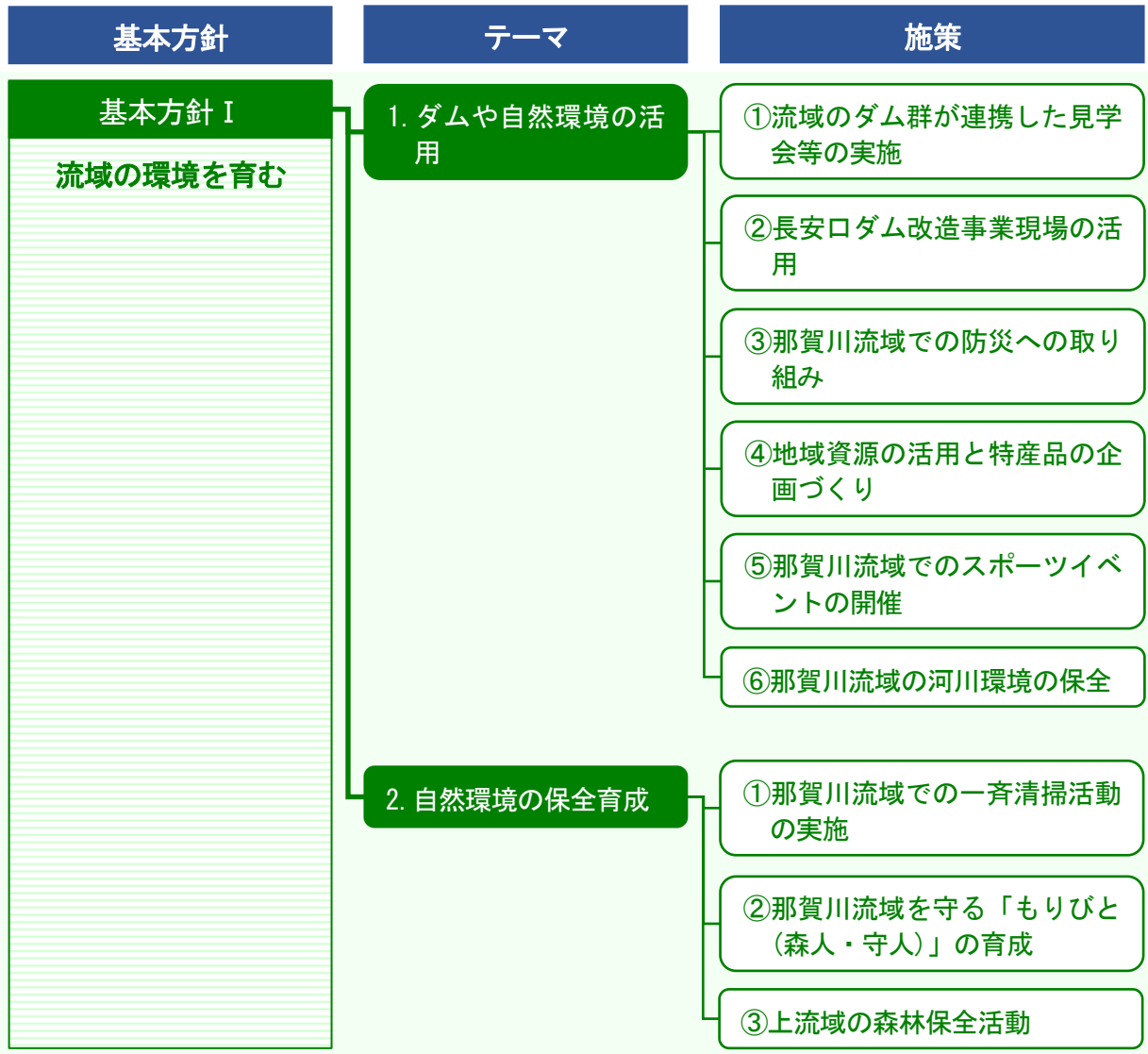
那賀川流域の地域資源・イベント情報・地域で取組まれている活動等の情報を幅広く発信することで、那賀川の魅力をPRします。

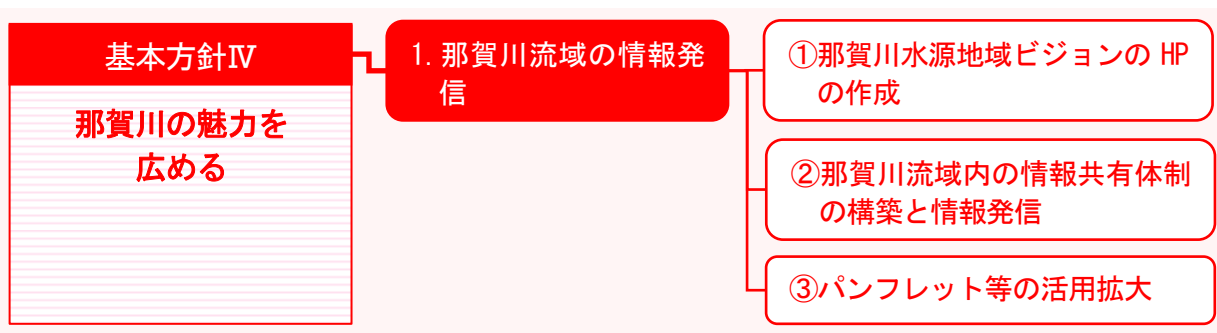
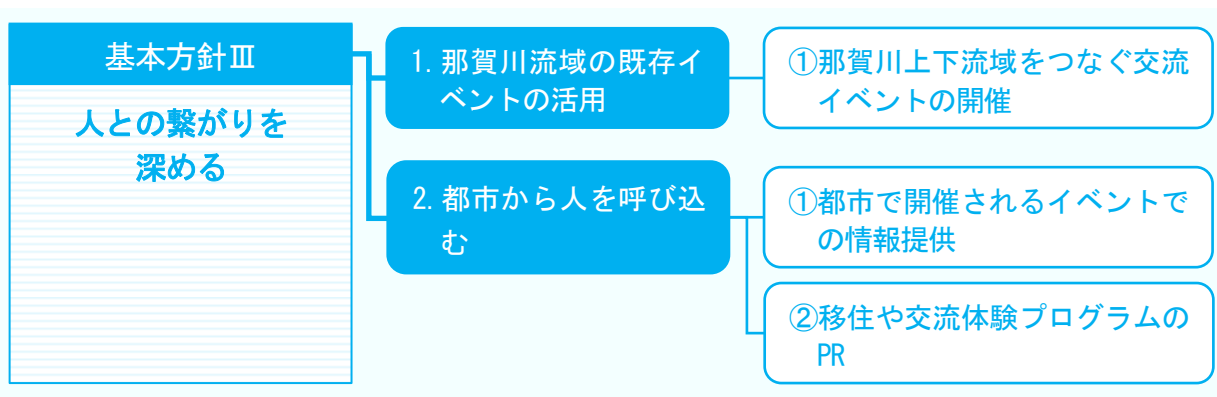
5. 那賀川水源地域ビジョンの実施内容

(1) 那賀川水源地域ビジョンで取り組む施策

コンセプトと基本方針に基づき、那賀川水源地域ビジョンを実現化するために、以下に示す施策に取り組めます。

●施策の体系図





●施策の内容

基本方針 I

流域の環境を育む

【 テーマ I-1：ダムや自然環境の活用 】

I-1-① 流域のダム群が連携した見学会等の実施

那賀川流域に建設された長安ロダムや川口ダム等を活用し、小学生または大人を対象とした、ダム見学会等を実施し、ダムの機能等を周知する。

施策の狙い

- ・那賀川流域を支えるダムの役割を伝える。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	ダム管理者・自治体
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム群が連携した見学会イベント ・定期的な見学者の受け入れ、ツール作成(小学生の社会科見学や見学の案内看板の作成等) ・ダム見学時に配布できるわかりやすい説明資料の作成 等



(写真提供：那賀川河川事務所)
長安ロダム見学会

I-1-② 長安ロダム改造事業現場の活用

他ではなかなか見ることが出来ない長安ロダムの改造事業現場の見学会を企画・実施する。

施策の狙い

- ・今しか見られない事業をPRに活用する。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	ダム管理者・自治体
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・改造事業中の長安ロダム堤体見学会



改造事業中の長安ロダム

I-1-③ 那賀川流域での防災への取り組み

那賀川での防災意識を高めるため、避難訓練や危険箇所の抽出を行い災害に備える。

施策の狙い

- ・流域住民の防災意識を高める。

活動開始時期	中期に取り組む
取り組みの主体	自治体・河川管理者・ダム管理者、流域活動団体 等
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関が連携した避難訓練の実施 ・危険箇所の抽出 ・マイ防災マップの作成 等

I-1-④ 地域資源の活用と特産品の企画づくり

那賀川流域の地域資源を活かし、特産品開発を企画する。また、地域資源を活用した体験イベント等を実施する。

施策の狙い

- ・鳥獣被害などの課題解消や那賀川環境のPRについて、特産品開発を通して実施する。これらの取り組みと地域経済の活性化を繋ぐ。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ジビエ、あめご、晩茶等の地域資源の抽出 ・学生や外国人等を対象とする特産品づくり体験イベント開催 ・ダム見学と合わせて、特産品の提供 等

I-1-⑤ 那賀川流域でのスポーツイベントの開催

那賀川流域の魅力的な自然景観を体感できるサイクルイベントやツーリング等のスポーツイベントを開催する。

施策の狙い

- ・イベントを通じて那賀川流域の自然景観を体感してもらい、人の交流や地域経済の活性化に繋げる。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・那賀川上下流域を対象範囲としたスポーツイベント（トレイルラン、サイクリングなど）の開催 ・イベント時に、流域の自然や地域の食を楽しむような仕組み（スタンプラリーの実施等）の検討 等



スポーツイベントの様子

I-1-⑥ 那賀川流域の河川環境の保全

河川管理者が実施している水質調査や川の生き物観察会を通じて、那賀川流域の河川環境保全の大切さを流域住民に伝える。

施策の狙い

- ・那賀川に触れる機会を通じて、流域の河川環境保全の意識を高める。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体・自治体・河川管理者・ダム管理者
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・水生生物調査やパックテストによる水質調査の実施 ・川にすむ生き物観察会の開催 等



(写真：那賀川河川事務所 HP)

水質調査の実施状況

【 テーマ I-2：自然環境の保全育成 】

I-2-① 那賀川流域での一斉清掃活動の実施

各団体で行っている清掃活動の日時を調整し、那賀川上流域～下流域までの一斉清掃活動を実施する。

施策の狙い

- ・清掃活動を通じて、那賀川流域の環境を守る意識を持ってもらう。また、流域全体で活動に取り組むことで、上下流の連携促進に繋げる。



(写真提供:那賀川河川事務所)
清掃活動

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体・自治体・河川管理者・ダム管理者
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動実施団体の調査、清掃している団体の活動情報提供 ・冬季に一斉清掃活動企画検討・実施 ・現在実施しているイベント参加への呼びかけ、活動PR 等

I-2-② 那賀川流域を守る「もりびと（森人・守人）」の育成

中高生・大学生等を対象に、山の生き物や自然の大切さを伝える自然観察会、間伐・植林等の林業体験を行えるイベントを企画・実施する。

施策の狙い

- ・森林への関心を高める取り組みを通じて、林業の後継者育成に繋げる。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体・自治体・ダム管理者
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・現在実施している人材育成活動情報（子どもを対象とした自然教室等）のPR ・ダム見学と連携した林業体験イベント企画・実施 等

I-2-③ 上流域の森林保全活動

林業関係者と協力し那賀川上流域の現状や活動を周知する。

施策の狙い

- ・那賀川上流域の森林の状況や団体の活動状況を周知して、森林の現状について理解を深める。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体・自治体・ダム管理者
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・現在取り組んでいる団体の活動を周知、参加への呼びかけ ・ダム見学と連携した森林保全活動イベントや流域や流域外からの人が参加できる年間を通じた活動を企画・実施 等

【 テーマⅡ-1：伝統文化等のPR・継承 】

Ⅱ-1-① 那賀川流域の郷土食のPR

那賀川流域に昔から伝わる「はんごろし」「かきまぜ」等の郷土食を、手作り体験やイベントを通じて次世代に伝える。また、地域の食文化を流域外の住民に広める。

施策の狙い

- ・ 地元の食文化を地域の子も達等へ伝える。
- ・ 徳島県内外に那賀川流域の郷土食を広め、那賀川流域に訪れるきっかけを作る。



(写真提供：那賀町)

地域のお菓子「はんごろし」

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体・自治体
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在実施しているイベント等と連携した郷土食の提供 ・ 那賀川流域や徳島県内外のイベントに郷土食を出店 等

Ⅱ-1-② 流域の防災文化・災害遺産の収集・周知

那賀川流域の防災文化・災害遺産の情報を集め、過去の災害を風化させないように、流域住民に周知する。

施策の狙い

- ・ 過去の災害の教訓を活かし、流域住民に今後の災害に備える意識をもってもらう。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体・自治体・河川管理者・ダム管理者
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存資料の活用や聞き取り調査での情報収集 ・ 流域の災害を経験した人への聞き取り調査の実施 等

Ⅱ-1-③ 伝統文化・観光資源等のPR マップの作成

那賀川流域の地域資源や伝統文化、地域の食等を掲載した那賀川流域ガイドマップを作成する。

施策の狙い

- ・ 来訪者に那賀川流域の伝統文化等を伝えるための新たなツールを作る。



那賀川流域ガイドマップ（案）

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体・自治体・河川管理者・ダム管理者
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 那賀川流域ガイドマップの作成 ・ 作成したマップの活用（ツアーでの配布等） 等

II-1-④ 伝統文化等の体験イベントの実施

人形浄瑠璃や紙漉き等的那賀川流域の伝統文化を体験できる企画を検討・実施する。

施策の狙い

- ・次世代の若者等に地域の伝統文化を継承する。
- ・那賀川流域でしか体験できない伝統文化の体験イベントを企画し、流域外の人を呼び込む。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体・自治体
取り組みイメージ	・既存施設を活用した伝統文化の体験を実施。 ・人形浄瑠璃等の伝統文化を体験してもらうために、地域内で公開練習を実施 等



(写真提供：那賀町)
紙漉き体験の様子

II-1-⑤ 伝統文化の継承につながる施設等の保全

農村舞台や紙漉き場等の伝統文化の施設とその景観を守る活動を実施する。

施策の狙い

- ・地域の伝統文化を後世に引き継げるように、当時の施設とその景観を守る取り組みを行う。

活動開始時期	中期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体・自治体
取り組みイメージ	・地域内の伝統文化の現状を把握し、後世に残したい資源を抽出 ・抽出した資源の保全方法について検討 等



農村舞台の全景

II-1-⑥ 流域の景観を活かした伝統文化のPR

棚田等的那賀川流域の魅力的な景観と伝統文化をPRする。

施策の狙い

- ・那賀川流域の特徴的な景観と伝統文化をPRし、素晴らしい地域資源の保全を促す。

活動開始時期	中期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体・自治体
取り組みイメージ	・地域資源カルテの作成、情報追加 ・地域資源をPRする映像等の作成、配信方法の検討 等



地域資源カルテ

【テーマⅢ-1：那賀川流域の既存イベントの活用】

Ⅲ-1-① 那賀川上下流域をつなぐ交流イベントの開催

既存イベントにて、那賀川上下流域の交流プログラムを企画・実施する。

施策の狙い

- ・イベントを通じて、上下流域の連携を深める。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体・自治体・ダム管理者
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・「那賀川の日」や「源流コンサート」等の既存イベントの継続的な開催 ・既存イベントと連携した新たな企画検討 ・民間事業者がバスツアー等の企画ができるよう情報の提供 等



那賀川流域バスツアーチラシ(案)

【テーマⅢ-2：都市から人を呼びこむ】

Ⅲ-2-① 都市で開催されるイベントでの情報提供

徳島市や徳島県外で開催されるイベントまたは物産展に参加し、地域の特産品の販売や那賀川流域の魅力を掲載した地域資源マップの配布を行う。

施策の狙い

- ・イベント等を通じて、流域外の活動団体や住民との繋がりを作る。
- ・那賀川流域の魅力を幅広くPRする。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	流域活動団体・自治体
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県外や徳島市で開催されるイベントや物産展で那賀川流域の地域資源マップの配布等、地域情報のPRの実施 等

Ⅲ-2-② 移住や交流体験プログラムのPR

都会に住む人達や団塊の世代を対象に、自治体で取り組んでいる移住・交流体験プログラムや空き家情報、居住者への支援情報を、徳島県外に周知する。

施策の狙い

- ・移住者や交流人口の増加を目指し、県外の住民を那賀川流域に呼び込む。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	自治体
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体で取り組んでいる移住や交流体験プログラムを都市で開催されるイベントへの参加と周知 ・バスツアー等のイベント等での移住のPR 等

【テーマⅣ-1：那賀川流域の情報発信】

Ⅳ-1-① 那賀川水源地域ビジョンのHPの作成

那賀川水源地域ビジョンの取り組みや流域活動団体の活動状況をPRするために、ホームページを作成する。

施策の狙い

- ・那賀川流域の取り組みを徳島県内外に幅広くPRする。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	自治体・ダム管理者・流域活動団体 等
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・那賀川水源地域ビジョンのホームページの作成、更新 ・推進協議会等での更新情報の収集



那賀川水源地域ビジョンHP(案)

Ⅳ-1-② 那賀川流域内の情報共有体制の構築と情報発信

流域内の自治体広報紙やケーブルテレビ、道の駅等と情報を共有する体制を構築し、情報発信を行う。

施策の狙い

- ・ビジョンでの取り組みを流域住民等に周知する。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	自治体・ダム管理者・流域活動団体 等
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ケーブルテレビや地域情報誌等を通じたビジョンでの活動の配信 等

Ⅳ-1-③ パンフレット等の活用拡大

パンフレットの配布場所の拡大やイベント時に配布する等、パンフレットの活用を広げる。

施策の狙い

- ・パンフレットを活かし、地域の魅力をPRする。

活動開始時期	短期に取り組む
取り組みの主体	自治体・ダム管理者・流域活動団体
取り組みイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの配布場所の拡大（例：小中高への配布） ・既存イベントでのパンフレット配布 等

(2) 施策の段階的な推進活動

那賀川水源地域ビジョンの推進は、平成 28 年度より那賀川流域の活動団体と関係自治体等がゆるやかな連携をとり拡大しながら、施策の実現を目指します。

施策の取り組みは、無理のない範囲で長く続けていくことが大切ですので、概ね3年ごとに施策の取り組み状況を確認し、行動計画等の見直しを図っていくこととします。

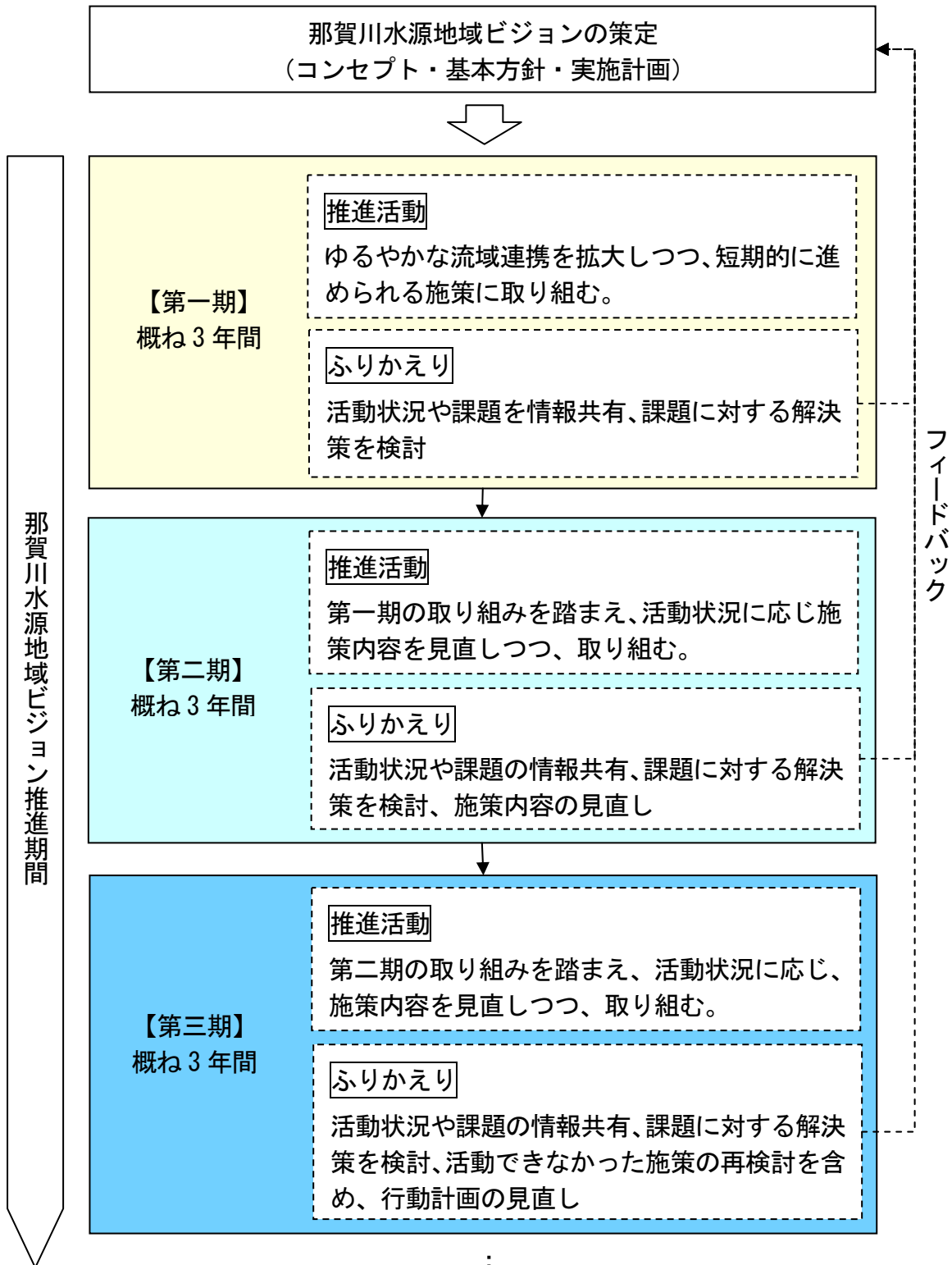
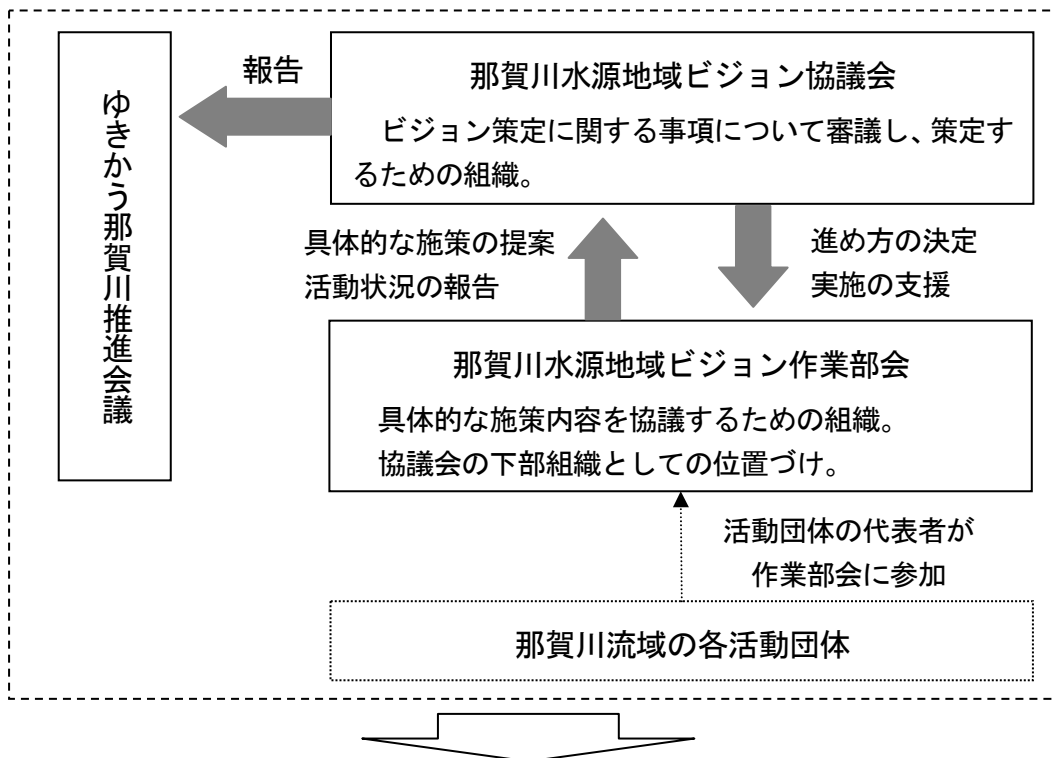


図4 那賀川水源地域ビジョンの段階的な推進のイメージ

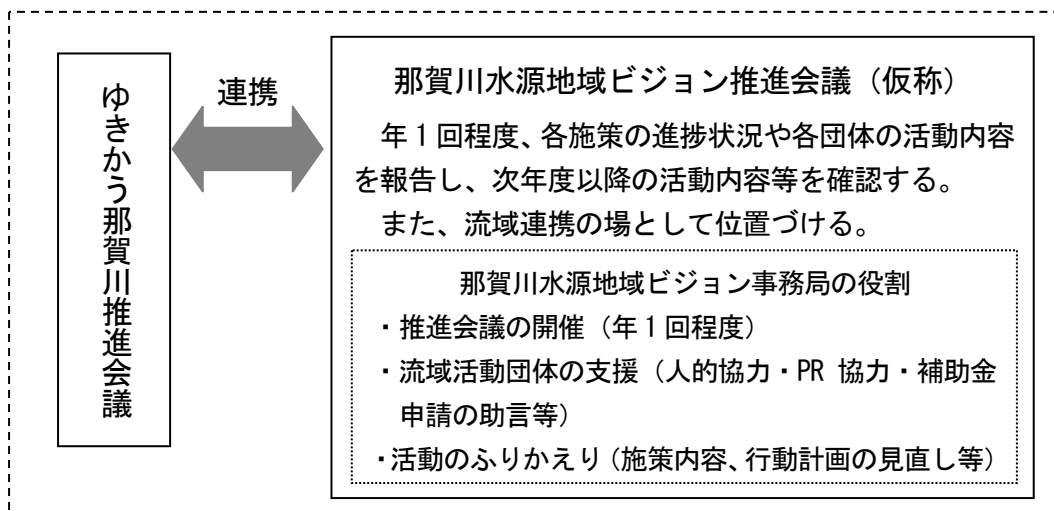
(3) 那賀川水源地域ビジョンの推進体制

那賀川水源地域ビジョンを推進するためには、那賀川流域の活動団体と行政との連携が必要です。このため、ビジョン策定後は「那賀川水源地域ビジョン推進会議（仮称）」を設置し、活動内容の報告とビジョンの見直しを行っていきます。

【那賀川水源地域ビジョン策定までの体制】



【那賀川水源地域ビジョン策定後の推進体制】



※ ゆきかう那賀川推進会議とは・・・

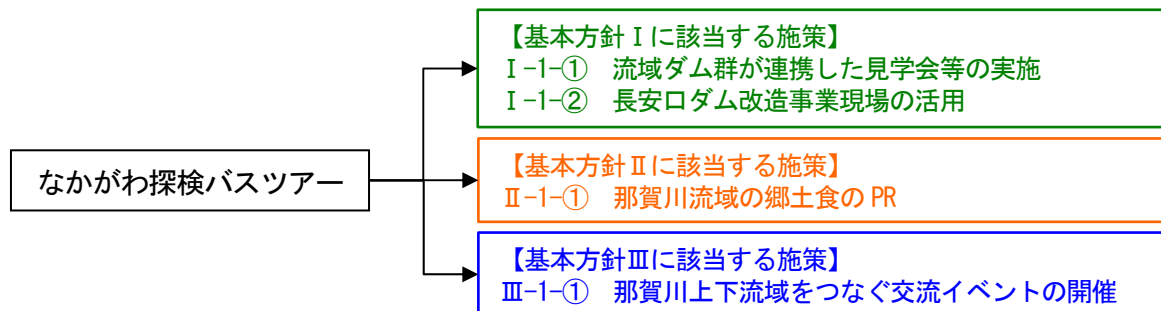
那賀川の流域内交流の活性化、上下流連携の推進による流域振興を目指して、流域関係者を中心に平成20年3月に発足。

(4) 次年度以降的那賀川水源地域ビジョンの動き

ビジョン策定後は、流域活動団体・自治体・ダム管理者が現在取り組んでいる活動をゆるやかな連携を図りながら進めます。

【 連携して取り組む施策 】

各基本方針で取り組む施策を那賀川流域の既存イベントである「なかがわ探検バスツアー」で連携させることにより、以下の施策の推進に繋がります。



【 基本方針別の次年度以降に取り組む施策 】

	施策	取り組む内容
基本方針Ⅰ	Ⅰ-1-① ★ 流域ダム群が連携した見学会等の実施	ダム見学会チラシの配布や見学会案内看板作成、映像作成、案内ガイド育成を行う。
	Ⅰ-1-② ★ 長安ロダム改造事業現場の活用	
	Ⅰ-1-④ 地域資源の活用と特産品の企画づくり	ジビエカレーの企画・検討を行う。
基本方針Ⅱ	Ⅱ-1-① 那賀川流域の郷土食のPR	既存イベントで、郷土食のPR班を作り、郷土食を提供する。
	Ⅱ-1-② 流域の防災文化・災害遺産の収集・周知	過去の災害と流域の関わりについて聞き取り調査を行う。
	Ⅱ-1-③ ★ 伝統文化・観光資源等のPRマップの作成	作成したマップの配布者（協力団体や企業等）への依頼・調整、印刷方法を検討する。
	Ⅱ-1-④ 伝統文化等の体験イベントの実施	多くの人に人形浄瑠璃をみてもらうため、公開練習会場を地域内で調整・設置する。
基本方針Ⅲ	Ⅲ-1-① ★ 那賀川上下流域をつなぐ交流イベントの開催	那賀川の日と源流コンサート等の既存イベントを、継続実施する。
基本方針Ⅳ	Ⅳ-1-① ★ 那賀川水源地域ビジョンのHPの作成	作成したHPの運営先を検討する。
	Ⅳ-1-② 流域内の情報共有体制の構築と情報発信	情報共有するための体制を構築する。

★マークの施策は、平成27年度に那賀川水源地域ビジョンで取り組みを始めた施策です。

參考資料

那賀川水源地域ビジョン協議会 規約

(名 称)

第1条 本会は、「那賀川水源地域ビジョン協議会」（以下、「協議会」とする）と称する。

(目 的)

第2条 協議会では、長安ロダムも含めた那賀川流域全体を対象に、那賀川流域の地域資源および既存の流域内の活動を活かした地域の自立的・継続的な活性化と、上下流域の連携促進を視野に置き、「那賀川水源地域ビジョン」（以下、「水源地域ビジョン」とする）について審議し、策定することを目的とする。

(構 成)

第3条 協議会は、前条の目的を達成するために、別表-1に掲げる委員により構成する。また、協議会の下部組織として、作業部会を置く。

(作業部会)

第4条 作業部会では、水源地域ビジョンの策定について、協議会に付議すべき事項等について協議する。

(任 期)

第5条 協議会の委員の任期は、平成27年度末までの期間とする。

協議会の委員が任期中において、第3条に記載した職を離れたときは、次にその職に就いた者が前任者の残任期間の任務に就くものとする。

(組織等の継承)

第6条 第3条に記載の組織において、組織の改変等により、協議会の委員の組織及び職名等が変更となった場合は、組織及び職名等を新たな組織及び職名等に読み替え、その職に就いたものが協議会の委員を継承するものとする。

(会 長)

第7条 協議会には、会長1名を置くものとする。
会長は、協議会を総括し、協議会を代表する。

(協議会)

第8条 協議会は、会長が招集し、座長を務める。
協議会の委員が協議会に出席できない場合は、代理出席を認めるものとする。

(情報公開)

第9条 協議会については、一般への公開を原則とする。

水源地域ビジョンは、一般にも公開し、関連する事業や活動に対して流域関係者等の協力や積極的な参加を得られるように努める。

(事務局)

第10条 協議会の事務局は、国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所内に置く。

事務局の運営に関して必要な事項については、関係機関が協力して実施するものとする。

(その他)

第11条 その他、この規約に定めるものの他、協議会の運営等に関する必要な事項については、協議会の議決により決定する。

前項のうち、軽微な事項については、会長が専決できるものとする。

附則

この規約は、平成27年2月17日より施行する。

●那賀川水源地域ビジョン協議会メンバー

(平成 28 年 3 月時点)

区分	所属	役職	氏名
学識者	阿南工業高等専門学校	名誉教授	湯城 豊勝 (委員長)
地域関係	ファガスの森 高城	支配人	平井 滋
	那賀川こまち	会長	橋本 延子
	那賀川アフターフォーラム	会長	中村 貴志
	那賀川流域センチュリーラン 実行委員会	副会長	福住 安雄
	那賀町商工会	会長	山城 啓孝
	徳島県建設業協会 那賀支部	参事	川原 武志
	阿南商工会議所	専務理事	上杉 豊久
	丹生谷清流座	—	湯浅 悦司
行政関係	徳島県 県土整備部 河川整備課 水資源・流域振興室	室長	綿貫 史郎
	徳島県 南部総合県民局 産業交流部<美波> 交流連携担当	課長	大下 尚
	徳島県企業局 工務課	課長	杉本 秀明
	四国電力株式会社 徳島支店 土木建築課	課長	八嶋 和幸
	阿南市役所 建設部	部長	吉川 博文
	那賀町役場 企画情報課	課長	葛木 幸男
	那賀川河川事務所	所長	赤松 薫

●那賀川水源地域ビジョン作業部会メンバー

(平成 28 年 3 月時点)

区分	所属	役職	氏名
学識者	阿南工業高等専門学校	名誉教授	湯城 豊勝 (第 1 作業部会長)
地域関係	ファガスの森 高城	支配人	平井 滋
	那賀川こまち	会長	橋本 延子
	那賀川アフターフォーラム	会長	中村 貴志 (第 3 作業部会長)
	那賀川流域センチュリーラン 実行委員会	副会長	福住 安雄
	那賀町商工会	会長	山城 啓孝
	徳島県建設業協会 那賀支部	参事	川原 武志
	阿南商工会議所	専務理事	上杉 豊久
	丹生谷清流座	—	湯浅 悦司 (第 2 作業部会長)
	南つるぎ地域活性化協議会	副会長	桑原 豊秀
	フォレストワーク協同組合	代表理事	西原 正彦
	木沢獺友会	会長	吉田 行雄
	農業青年クラブアグリーズ	—	近田 大介
	那賀町文化協会	会長	下北 健郎
	おやじのなんでも塾	代表	福井 義範
えんむすびの会	会長	西谷 幸子	
行政関係	徳島県 県土整備部 河川整備課 水資源・流域振興室	室長	綿貫 史郎
	徳島県 南部総合県民局 産業交流部<美波> 交流連携担当	課長	大下 尚
	徳島県企業局 工務課	課長	杉本 秀明
	四国電力株式会社 徳島支店 土木建築課	課長	八嶋 和幸
	阿南市役所 建設部	部長	吉川 博文
	那賀町役場 企画情報課	課長	葛木 幸男
	那賀川河川事務所	所長	赤松 薫

○ アンケート調査の結果

本ビジョンの検討の過程で、那賀川上流域におけるニーズと地域活動への関心を把握するために、WEB上でのアンケート調査と那賀川流域で毎年開催されている「源流コンサート」でアンケート調査を実施しました。

・WEB上でのアンケート調査結果

調査目的

- ・ 那賀川上流域のニーズを把握
- ・ 那賀川上流域での地域活動への関心の把握
- ・ 那賀川上流域へ訪れていない理由の把握
- ・ 既存イベントの認知度の把握
- ・ 那賀川上流域の地域づくりに関する意見・要望の把握

表1 アンケート調査の概要

調査実施期間	平成 26 年 7 月 18 日（土）～平成 26 年 7 月 25 日（土）		
調査実施条件	対象者	性別	男女
		年齢	10代～80代
		職業	指定なし
		対象地域	徳島県徳島市、阿南市
最終回答数	743 票		

調査結果

- ・ 徳島市と阿南市に住む人は、主に自然景観や温泉を目的に、那賀川上流域を訪れている。

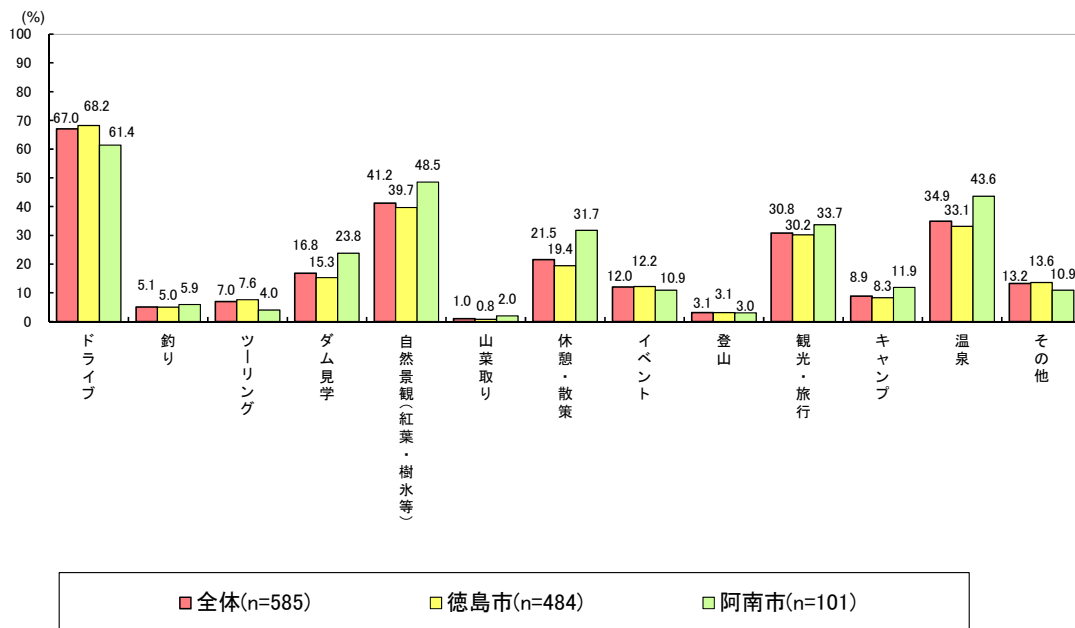


図1 那賀川上流域を訪れたことがある人の那賀川上流域への来訪目的

・徳島市と阿南市に住む人にとって、那賀川上流域の魅力は、主に美しい自然景観だと感じている。

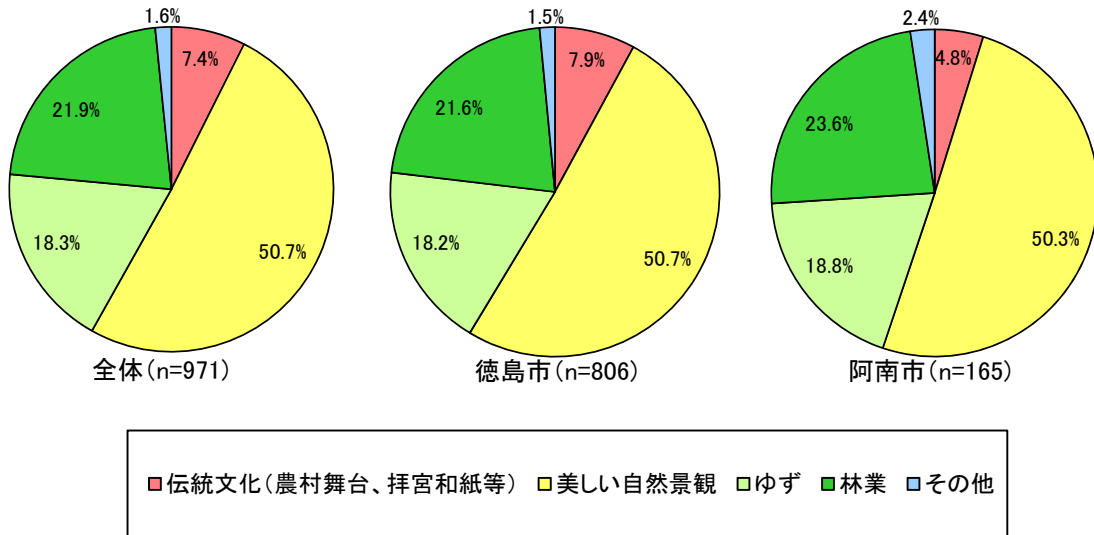


図2 那賀川上流域に訪れたことがある人が持つ那賀川上流域のイメージ

・徳島市と阿南市に住む人は、那賀川上流域で行っているイベントや地域活動のうち、地元の特産品グルメツアーに最も関心があることがわかった。

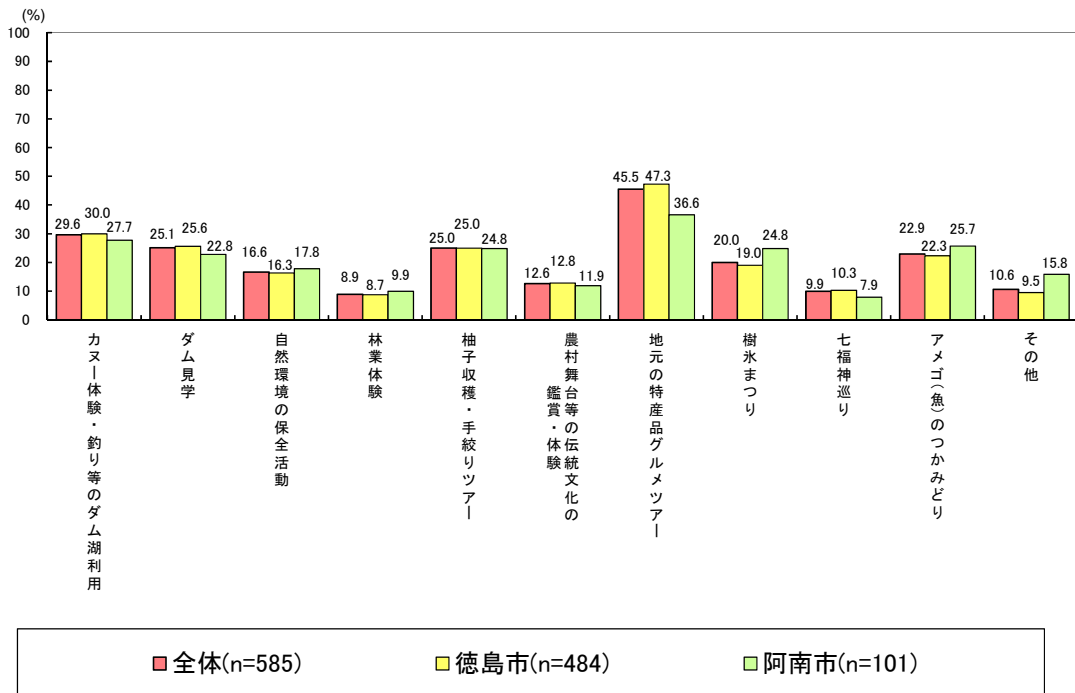


図3 那賀川上流域に訪れたことがある人の那賀川上流域で感心のあるイベント等

- ・那賀川上流域を訪れていない徳島市と阿南市に住む人にとって、那賀上流域に何があるのかわからないことや訪れる目的がないなどのため、足を運んでいない。

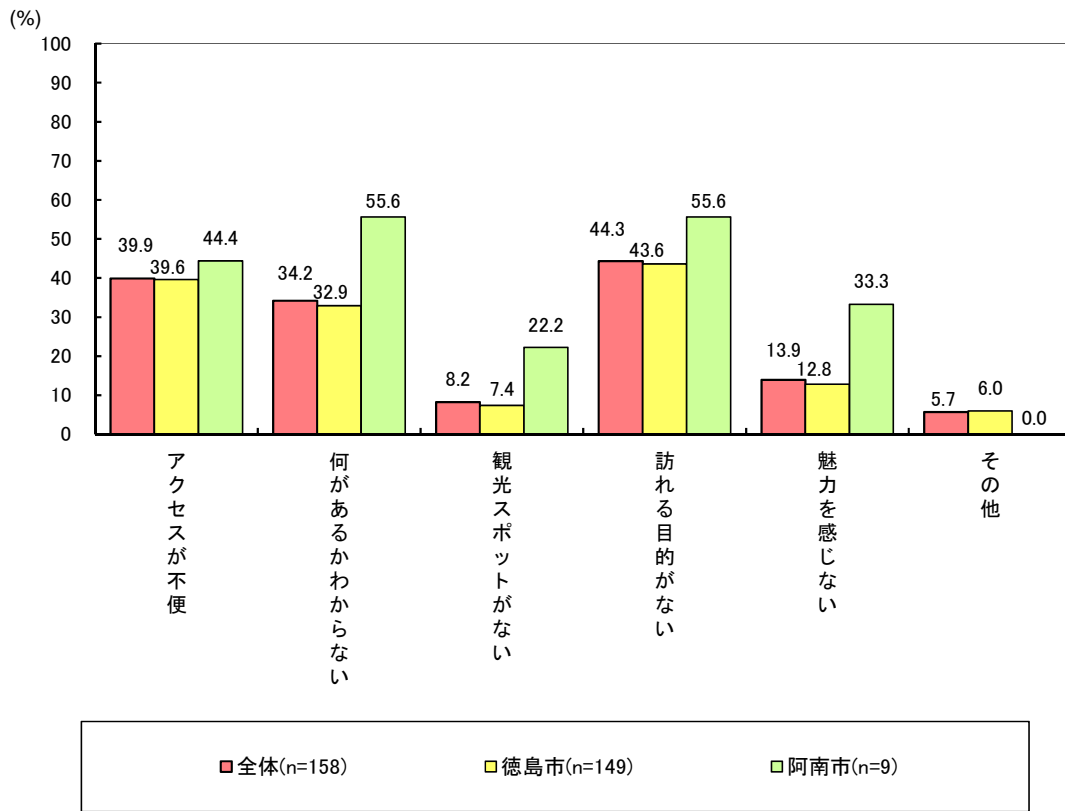


図4 那賀川上流域を訪れたことがない人の来訪していない理由

- ・那賀川上流域の既存イベントは、徳島市と阿南市に住む人に、ほとんど周知されていない。

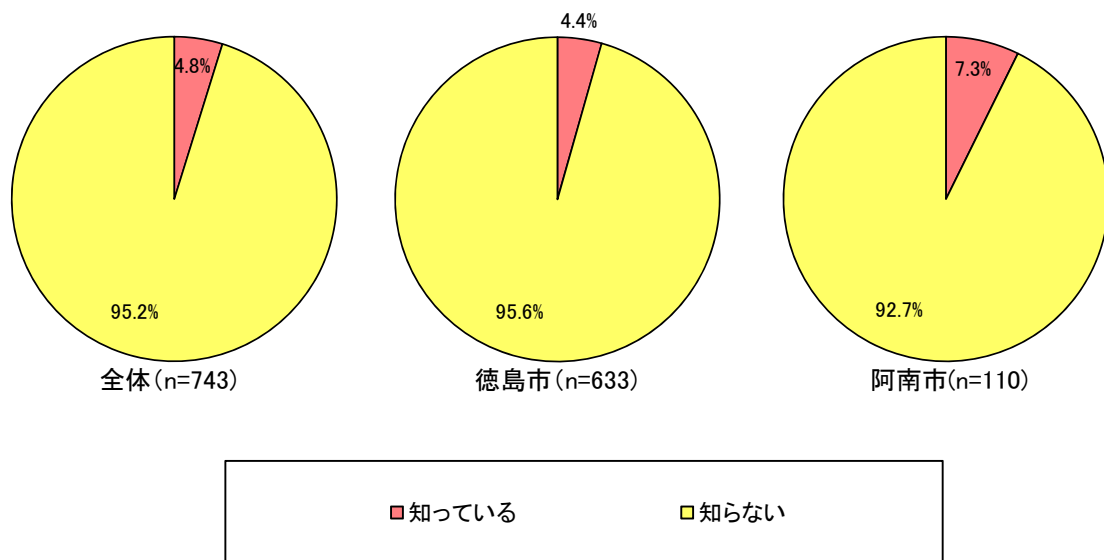


図5 那賀川の日イベントの認知度

・源流コンサートでのアンケート調査結果

調査目的

- ・那賀川流域住民等が抱く、那賀川上流域で関心のあるイベント等の把握
- ・那賀川流域住民等が抱く、那賀川上流域のニーズを把握
- ・那賀川下流域等の住民の、那賀川上流域の来訪目的の把握
- ・那賀川上流域の地域づくりに関する意見や要望等

表2 アンケート調査の概要

調査実施日	平成26年10月26日(日)
調査地点	四季美谷温泉
回収票数	21票
調査対象者	イベント参加者 (那賀川上流域住民、下流域住民、その他の地域住民)

調査結果

那賀川流域住民および都市域住民からの、那賀川上流域の地域づくりに関する意見や要望を以下に示す。

【那賀川上流域（那賀町）に住む人からの意見】

- ・地域づくりを進める上で、上・下流の交流が重要。 (60代)
- ・元々、小学校で教鞭をふるっていた。その時に、子どもたちにどんなイベントを行ったらよいかを聞いたところ、たくさんのアイディアが出た。地域づくりの際、子どもたちにも意見を聞くと、面白いかもしれない。 (60代)
- ・イベントPRが必要。今日のイベントも、子どもがいなかったら、いつ・どこでやるのか知らなかった。 (30代)
- ・子どもが楽しめるイベントだったら参加してみたい。小さい子ども(低学年や未就学児)でも楽しめる内容が良い。もっと地元の食が気軽に楽しめたら良い。 (30代)
- ・子どもがコンサートに参加するので、初めて四季美谷温泉に来た。子どもが楽しめる内容ならば、参加させたい。夏休み前にバスツアーのチラシは見ていた。 (30代)

【那賀川下流域（阿南市）に住む人からの意見】

- ・現在的那賀町の山は、針葉樹ばかりなので、他の樹木を植樹して、景観や自然を保護してほしい。 (60代)
- ・今日、イベントをやっていることを知らなかった。今日のような面白いイベントをやっていることを、もっとPRしてほしい。 (60代)
- ・那賀町ならではのインパクトのある特産がない。イメージ戦略が必要。ゆずは特産だが、キャラクターでPRするとか、ゆずの〇〇といったお題目をつけてPRするとよい。上勝町のような題目が必要。 (50代)
- ・スポーツ交流のようなウリが那賀町にもあるとよい。山登りをする人が多いので、山登りの活動団体間で連携できれば、新たなつながりが生まれるだろう。 (40代)
- ・那賀町のゆかりある人に、那賀町の魅力を伝えてもらおうとよい。 (40代)

- ・PRが少ない。情報をもらえれば、もっと人がくると思う。(70代)
- ・イベント(地元)の情報をもっとPRすること。また、地域の特色を出してほしい。那賀町を1日満喫できるようなコースなどを教えてほしい。(40代)

【都市(徳島市等)に住む人からの意見】

- ・個人で頑張っている地域の人を巻きこんでいってはどうか?(80代)
- ・地域内での取り組みをPRすることが大事。冬場でもPRできるものが必要。(80代)
- ・他の地域にはない、那賀町ならではの取り組みが必要。(80代)
- ・知人や友人がいると足を運ぶし、場合によって地域づくりに参加する。
人が人を呼んでいるので、那賀町に住みたいと思う人を増やすことが、地域づくりにつながると思う。(30代)
- ・地域産業を強化して、若者が定住できるような、労働環境を作ることが重要。(50代)
- ・手作りの柚子味噌が美味しかったので、手作り体験などがあると参加したい。(60代)
- ・女性(主婦向け)の体験があると、友達と一緒に参加できる。(60代)
- ・滝がいくつもあるようだが、もっとわかりやすければ、見に行きたい。(60代)
- ・アメゴのつかみどりはやってみたい。(60代)
- ・農村舞台に興味がある。七福神巡りというのも気になる。(60代)
- ・子どもにはアメゴのつかみどりは人気になるかも?!大人でも楽しめそう。(60代)
- ・見どころの案内看板やチラシをもっと用意しては? (60代)
- ・自分ぐらいの歳になると、『体験もの』は体力的なことを考えて、あまり参加する意欲がわかない。もっと単純に『体感』できるものが良い。(60代)
- ・時間は持て余しているので、楽に体感できるものが良い。(60代)
- ・もっとPRすれば、人は来るのでは?! (60代)
- ・那賀町の人たちは、人柄が良くて親切。もっと町の人たちが元気なるような取り組みをやって欲しい。機会があればコンサート以外のイベントにも来てみたい。(40代)
- ・峠の国道を抜けてきたら、少し道に迷った。できればもう少し看板などを設置するか、今ある看板を大きくして欲しい。(50代)
- ・子ども向けの企画も大事だが、大人が楽しめる体験物考えて欲しい。(50代)
- ・PRが足りないのでは? (50代)
- ・人形浄瑠璃を見たかったが、移動に時間がかかってしまい、見られなかった。次こそはぜひ見たい。(40代)
- ・長安ロダムの見学をしてみたい。特に今は工事中なので、工事の様子を間近で見られるような内容なら参加してみたい。(40代)
- ・子どもが小さければ、イベントなども子ども中心になるが、子育ても一段落したので、これからは夫婦で余暇を楽しみたい。そういう世代にとって、この辺(那賀川上流部)は訪れてみたくなる場所だ。(50代)